

【 国語科の実践 】

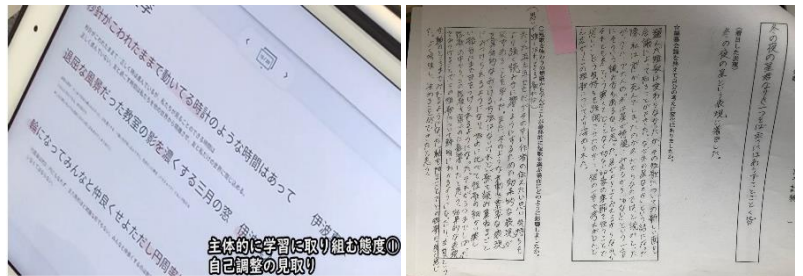
1 本校国語科の実践

本校国語科では、「生徒が主体的に言葉の価値や意義を追究していく授業の創造」を研究主題に掲げ、「言葉による見方・考え方」を働かせる学習課題の設定に取り組んできた。今回はC領域「読むこと」の短歌の授業で生徒が主体的に言葉を捉えたり、捉えなおしたりすることを行った。言葉を表面的なものとして獲得することだけではなく、作品の中で出会う言葉を大切に、その言葉の背景にある作者や時代背景、などにも考えを及ぼし捉えていきたい。今回の授業では、「選者になって、私たちの歌集を作ろう」という言語活動を設定し、教科書中の作家の短歌について言葉に着目して効果的な表現を抽出することを行い、なぜこの短歌の表現が読み手に様々なことを想像させることができるのかについて考えさせた。さらに生徒同士の交流から短歌の魅力に迫り、その魅力を主体的に探ることで、文芸としての短歌が、自分の感性や経験と結びつき、生徒が短歌を身近に感じられるような読みができたのではないかと考える。

2 学びのプロセスモデルを活用した主体的に学習に取り組む態度の評価

今回の実践では主体的に学習に取り組む態度の評価として、まず、自分で選んだ作家の歌について探ることを行わせた。ここでは自分で調べた作家の短歌のどこに着目し、その言葉などの表現はどのような意味を持ってその歌の主たる表現となっているのかを考えさせる場面において粘り強さが発揮されているかを見取った。

また、自分が調べた短歌の表現を小グループで交流し、より多くの考え方に触れ、もう一度自身の短歌に立ち返り、その短歌の本当の魅力やその背景などを再考させる場面において自らの学習を調整させる場面を設定した。授業の流れは以下の通りである。



時間	内容	学びのプロセスモデル
事前	山梨県立文学館館長・歌人 三枝昂之先生より「短歌の読み方・作り方」の講義	
1時間目	館長先生の講義の復習を行い、「撰者になって、私たちの歌集を作ろう」という目標の設定。	目標設定・方略計画
2時間目	短歌を選ぶために、まずはモデルとなる教科書中の短歌の読み方を考える。	遂行
3時間目	教科書中の短歌の読みを交流させ考えを深める。	形成的評価
4時間目	図書館の本や多くの歌集、インターネットから表現に着目して「私たちの歌集」に入れる短歌を3首以上選び、Googleworkspaceのジャムボード1枚でまとめる。	
5時間目	小グループで自分が選んだ複数の歌の中でどの歌を歌集入れる歌として選ぶのかを意見をもらい自分の考えを再構築する。	方略調整
6時間目	歌集の発表会を行い、振り返りを行う	総括的評価

3 本実践の成果と課題

この単元の前半に行った「表現に着目」して作品について深く探ることは個別の読み取りの中で、発揮され、協働的な学習の中でも発揮され言葉を吟味することができた。しかし、後半の「クラスの歌集を編む」場面においては、ダブルスタンダードとなり、「表現に着目すること」と「クラスのテーマに合わせた歌を選ぶ」という基準になり、やりたいことが拡散してしまった。評価についてもこの二つのものをどのように判断するのか、どのような記述が振り返りや「撰者より」から出てくればAかなどの基準を設けることの難しさや、その評価の客観性や生徒自身がメタ認知できるのかといった課題が出された。

4 「Word Bank」の取り組み

Google work space を利用した語彙学習を積極的に活用し、振り返りがすぐできるように自分のクラウド上に語彙を書き留める取り組みを行っている。新たな言葉を積極的に取り入れていく方法を実践し、「Word Bank」として生活の様々な場面で得た新しい言葉を蓄積していくようにしていきたい。

まず蓄積するときに、感情を表す言葉や、動作を表す言葉など意味を分類して保存していくことにより、言葉の意味だけを理解し、蓄積していくだけではなく、自分の言葉として使えるものにしていきたい。さらに授業や日常の中で単独で獲得していく言葉と、作品の中で出会う言葉を整理し、どのような場面で使うことができるかなどより良い活用法について参加されている先生方からご意見をいただきたい。